

研究通信 No.3	学力向上にむけての本校の取り組み【共通確認・共通行動】	能美市立寺井中学校 研究部 2020年4月14日（火）
--------------	-----------------------------	-----------------------------------

研究主題

「学習の見通しと学び方を理解して、進んで学ぶ生徒の育成」

研究のねらい

来年度の新学習指導要領の実施に向けて、そのキーワードの1つである「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を確実に進めていく必要がある。本校の校訓である「和して学ばん」を対話的な学び、「汗して生くん」を主体的な学び、「創造の力みがかん」を深い学びと捉え、目指す生徒の姿として各教科等の指導の中でその実現を図ってきた。今年度も教科の見方やその良さを生徒に伝え、実践的な研究を進めていく必要がある。生徒が学ぶことの意義を理解し見通しを持って学習する態度を育成することが「主体的・対話的で深い学び」の基盤であると考え、上記の研究主題を設定した。

本校の学校教育目標は「学校教育の使命のもと、生徒一人ひとりが安心して学べる教育環境を整備する中で、ふるさとを愛し、自らの将来に夢と希望を抱き、その実現に向け挑戦し、学び続ける態度や豊かな心をもって社会に貢献できる人材を育成する」である。予測が困難な社会を、逞しく、そしてより良く生き抜く力を身に付けていくことを願い設定したものである。新学習指導要領を見通した研究実践の中で「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を推進するとともに、全ての教育活動を通して学校教育目標の実現に迫っていきたいと考えている。

研究内容

《研究部》授業づくりのキャッチフレーズは、「7 + 3 = 10」

◇学習習慣 【柱①：学習の基盤づくり】

- ・「授業を高める7か条」の徹底
- ・学習進度に応じた宿題や週課題の定着
- ・朝自習（読書）・終礼後学習の充実

◇授業改善 【柱②「わかる」「できた」を実感できる生徒主体の授業づくり】

- ・「授業改善3つのポイント」を活かした授業づくり
- ・単元マップの活用
- ・学力調査結果の分析
- ・過去問の適切で計画的な活用

《道徳部》

- ・教材分析と発問の工夫
- ・道徳ノートを活用
- ・評価の研究推進
- ・指導案や教材の保管・管理
- ・「考え議論する道徳」の推進
- ・特別活動等との連携

《総合・特活部（キャリア教育）》

- ・キャリアパスポートの活用
- ・体験活動や課題探究的な活動の推進
- ・生徒会活動や学級活動の推進
- ・学級発表会・学年発表会の設定
- ・キャリアプランニング能力の育成

★柱②：「わかる」「できた」を実感できる生徒主体の授業づくり

授業改善の3つのポイント・・・授業評価アンケートで検証

1. 本時のB基準(到達目標)の明確化

最初の5分程度で

- ◇単元で付けたい力を明確にし、生徒と共有する。
- ◇授業の最初にゴールと見通しをきちんと与える。
- ◇ゴールから逆算し授業を組み立てる。

2. 課題設定の工夫(生徒の脳をアクティブに)

AL20 (アクティブラーニング20) を目標に

1. 「AL20」とは、ALの実施率を示す指数(%)です。
2. 50分授業でAL5分なら、「AL10」、AL10分なら、「AL20」です。
3. 5時間の単元でAL1時間の場合も「AL20」です。

- ◇「考えたくなる」「やってみたくなる」「伝えたくなる」課題を工夫する。
- ◇SOS(喋りすぎ、教えすぎ、指示しすぎ)を意識し、考え(事柄、方法、根拠・理由など)を表現する場を設定し、生徒が活躍する場面を設定する。静の時間と動の時間のバランスを意識する。
- ◇思考を広げ深める「対話的な学び」を充実させる。
 - ・根拠・理由をもとに自分の考えを述べられるようにする。
 - ・全体交流までに個人思考やペア・グループ活動での子どもの考えや定着状況をしっかり見取る。
 - ・全体交流では、教師の意図的指名や問い返しなど、コーディネートを効果的に行う。

3. 定着を図る時間の確保(最後は個に戻す)

- ◇「できたかどうか」や「分かったかどうか」を確認する活動で終わる。
- ◇課題に対する「まとめ」(何ができるようになったか等)と学び方の「振り返り」(学びの姿勢はどうだったか等)を区別する。
- ◇課題に対する「まとめ」をどのように書かせるか(文字数等)は教科の特性に合わせて工夫する。
- ◇単元マップを活用し、生徒の学びの自覚につなげられるようにする。



プラス1

授業で言語活動を取り入れても、最後の評価場面やテストが従来型の選択問題や短答問題などでは、生徒は真剣に取り組みません。最後の評価場面や定期テストで、活用型の記述問題などを工夫することが大切です。